

製品名: CLK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09048**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	57kDa

抗原情報

遺伝子名	CLK1
別名	CLK1; CLK; Dual specificity protein kinase CLK1; CDC-like kinase 1
遺伝子 ID	1195.0
SwissProt ID	P49759
免疫原	抗血清はヒト CLK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

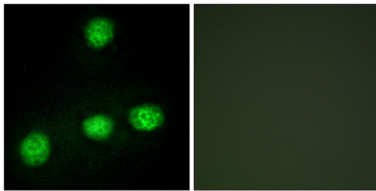
背景

CDC 様キナーゼ 1(CLK1) Homo sapiens この遺伝子は、CDC2 様（または LAMMER）ファミリーに属する二重特異性タンパク質キナーゼをコードしています。核内では、コードされているタンパク質は pre-mRNA プロセッシングに関与するセリン / アルギニンリッ

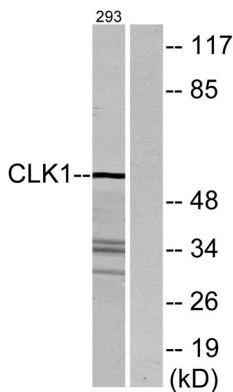
チタンパク質をリン酸化して核質へ放出します。pre-mRNA プロセッシング中のスプライス部位の選択は、セリン / アルギニンリッチタンパク質を含むトランスアクチン因子の濃度によって制御されている可能性があります。したがって、コードされているタンパク質はスプライス部位の選択を制御する間接的な役割を果たしている可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年6月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: スプライセオソーム複合体のセリンおよびアルギニンリッチ (SR) タンパク質をリン酸化する。これは、SR タンパク質が RNA スプライシングを制御するための制御機構ネットワークの構成要素である可能性がある。セリン、スレオニン、チロシンをリン酸化する。PTM: 3種類の残基すべてを自己リン酸化。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。Lammer サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: PPIG と相互作用する。

研究分野

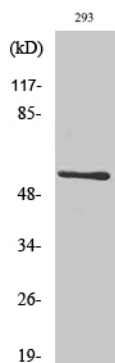
画像データ



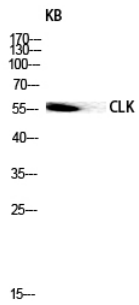
CLK1 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



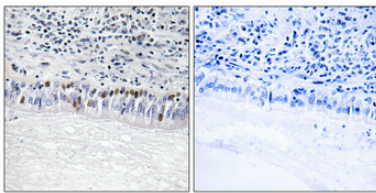
CLK1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した CLK1 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



CLK1 抗体を用いた KB 溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。